

たんぽぽ

「私の人生のテーマは“たんぽぽ”です。」これは、ある1人の患者様の言葉である。学生生活、楽しいことばかりではなかったが、私を支えてくれたのは“たんぽぽ”という言葉であり、看護師を目指して本当によかったと感じている。

患者様は、肺がんで終末期の方であった。咳嗽と喀痰が強く、毎日喀痰をだしたティッシュがゴミ箱いっぱいに入っていた。それでも話をすることが好きな方であり、毎日たくさんのことを私に教えてくれた。絵を書くことや風景を撮ることが好きなこと、習字や日記を毎日やっていたこと、妻との出会いから結婚のこと。私自身も会話を楽しんでいて、無理をしないでほしいことを素直に伝えた。すると患者様が、「人生残り少ない私が、人生始まったばかりのあなたに今できることは、あなたの勉強に協力することなんです。」と微笑みながら呟いた。とても嬉しい気持ちの反面、人の死が近いということを感じ、とても辛かったことを覚えている。今考えると、患者様は自分の人生を振り返っていたのではないかと感じ、患者様を知り理解することの難しさを痛感した。また、患者様はライナック療法をしていたため、毎日の放射線室への移送は私の日課のようなものになっていた。咳嗽と喀痰が強かったため、私は箱ティッシュと袋を持参しすぐに対応できるようにしていたが、それに対し患者様は、今までそのような人はいなかったととても喜んでいて。その時は、私自身当たり前のことになぜこんなに喜ぶのだろうと疑問に感じていた。

ある日、私はいつものように患者様との会話を楽しんでいて。患者様は、誰にも見せたことがないという“たんぽぽ”と表紙に書かれた日記を見せてくれた。そして、「私の人生のテーマは“たんぽぽ”です。踏まれても潰れても、堂々と立って上を向くように生きてきました。」と呟いた。さらに「あなたの笑顔はひまわりでなく、たんぽぽみたいです。たんぽぽのような笑顔だから、私たちも支えられているのですよ。あなたは絶対にいい看護師になれます。私が保証します。」と、たんぽぽのように道行く人に気づきしっかり見られていると言って頂いた。思いもしなかった言葉に涙が止まらなかった。そして、あのとき疑問に感じていたことがようやく分かった。私は、「患者様に寄り添った看護」を念頭に置き、患者様が今必要としていることはなにか、日々考えながら実習をしてきた。自分の中での答えが出ず悩んだことも多かった。しかし、患者様は私たちをちゃんと見ている。私たちの何気ない行動や言動、笑顔が患者様を支えていたことに気づかされ看護の喜びを、身を持って感じ少しでも患者様の役に立つことができたような気がして本当に嬉しかった。

その後、患者様と一緒に、ハガキや画用紙を使って絵や詩を好きなように描いた。私は患者様に画用紙いっぱいのたんぽぽの絵を描いた。患者様は私に「感謝～あなたに出会えてよかった～」と書き、私にくれた。

今、患者様がどうしているかはわからない。もし、できるのならば少しでも成長した私の姿をもう一度見てほしい。